

ソーシャルメディア に新たな支援

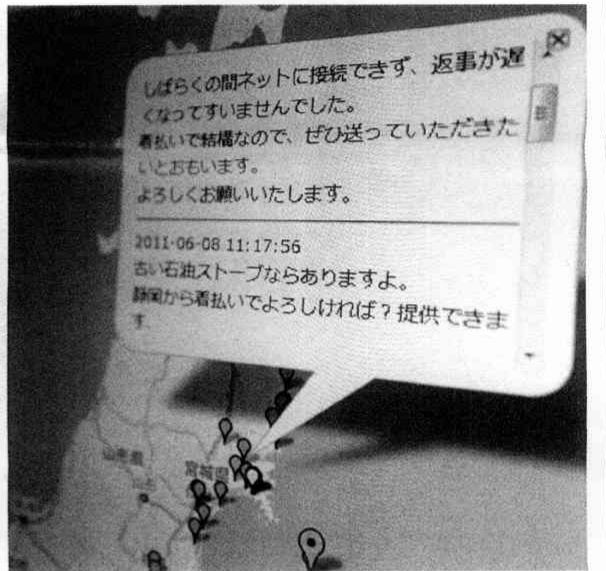
なく、人々につながりを提供し続けた。

また、震災の直後から「Google Crisis Response」などの震災に関する情報がまとめられたポータルサイトが相次いで開設された。これらのサイトには、新聞社やテレビ局によるニュースや、行政機関からの発表のほかに、被災地から送られてきた安全情報や、ツイッター上のつぶやきなど、ありとあらゆる情報が網羅され、人々に提供された。

また、通信インフラが復旧し始めたところから、現地の情報や被災者の要望などがツイッターやポータルサイトに寄せられるようになった。被災者の直後から日本を励ます声や、ボランティアとして被災地に活動した人々などの声も、自分たちの得た情報を、ツイッターなどで積極的に発信した。これにより、物資の輸送や現地でのボランティアなどの面で、より現地と被災者の実情に即した支援が可能になった。

人々は、ソーシャルメディアを活用することで、社会的な身分や年齢などに関係なく、それぞれの「何かしたい」という気持ちを実現することができるようになった。その結果、これまでの災害では見られなかった多種多様な支援の形が生まれていった。ツイッターや、海外での普及率が高いフェイスブックでは、震災の直後から日本を励ます声や、ボランティアとして被災地に活動した人々などの声も、自分たちの得た情報を、ツイッターなどで積極的に発信した。これにより、物資の輸送や現地でのボランティアなどの面で、より現地と被災者の実情に即した支援が可能になった。

野村総合研究所の調査によれば、東日本大震災に関連して「情報源として重視しているメディア」に「ポータルサイト」と答えた人は全体の43.2%に上り、「新聞」の36.3%を上回った。「ソーシャルメディア」と答えた人も18.3%と「新聞社サイト」の18.6%に迫った。震災後、ツイッターの利用者が33%増加したという調査結果もある。今回の震災では、ソーシャルメディアが大きく活躍し、震災という大きな災害への対応のありかたを変えた。私たち高校生は、この震災におけるソーシャルメディアの活躍から、何を学ぶことができるのだろうか。【新井翔太】



被災地 高校生ネットで支援呼びかけ

「被災者の方のために、自分たち高校生にできることはないか」。そんな思いは被災地からも生まれた。東北学院高等学校の末永伸太郎さんが代表をつとめられる「Messenger311」だ。末永さんら高校生グループが避難所をまわり、被災者が必要としている物資を聞き取り、インターネットで支援物資の提供を呼びかけたのだ。

被災地の必要物資 ネットで呼びかけ

「こんな物資が足りない」「被災地で何を必要としているのか分からない」。支援を求め、こんなギャップを埋めたのが「Messenger311」だった。まさにメッセージ（情報伝達）として、末永さんらは被災地をまわった。聞き取った要望はウェブサイトに「必要物資・支援要求マップ 311HELP.com」に書き込んだ。Googleマップを活用し、どこで、どんな物資が必要か直感的にわかるようになっている。支援したい気持ちと必要物資をうまく結びつける「しかけ」がある。

呼びかけのスピード ツイッターが加速

しかし、当初はインターネットを活用するものではなかったという。そんなとき末永さんは友人から「311HELP.com」を紹介され、「このマップを活用してはどうか」と勧められたそうだ。

最初からネット利用考えず

末永さんは特にコンピュータに強いというわけではない。普段は、普通の高校生と同じように、趣味の海外サッカーのニュースを読んだり、

動画をみたりすることが多いという。今回の活動を通して「ソーシャルメディアを使えば、自分たちのようなごく普通の高校生でも、情報を発信していくことができる」ということがわかった。被災地を回り、話を聞いた。被災地を回り、話を聞いた。被災地を回り、話を聞いた。

それがインターネットを活用した支援だった。ただで自分たちが特別なことをしたとは思っていないという。「Tシャツを製作・販売し、その売り上げを寄付するという活動を、行った高校生のグループがあった。こうした高校生らしい柔軟な発想があってもいい」と末永さんはいう。最初にネットありきという発想ではなく、「被災された方のために」という純粋な気持ちでソーシャルメディアの出会いが、末永さんたちの成功の鍵であるようだ。

とはいえ、ソーシャルメディアが末永さんらの活動を強く後押ししたことは間違いない。末永さん自身も「徐々にソーシャルメディアの持つ力を、実感していった」という。高校生によるソーシャルメディア活用の形を示した「Messenger311」は、「被災地を支援したい」という思いさえあれば、誰でもアクションを起こすことができるということを実証した。年齢制限はない。身元がかわらず、その情報が価値あるものである。情報は拡散していく。情報源を大事にすれば、高校生にだってできることがある」と末永さんは語った。

支援とは自立促進、相手目線

JICA山口さん、手崎さん

独立行政法人国際協力機構（JICA）北陸支部を訪ね、山口康範さん（市民参加協力調整員）と手崎雅代さん（業務課）に、そもそも「支援する」ということはどういうことなのか話を聞いた。真の支援とは「自立を促す」ことであり、現地の人々を「学ぶ」ことが大切なのだという。

物資の提供だけではない 真の支援は「自立を促す」こと

JICAは、ODAなどを通じて、開発途上国における社会・経済の開発を支援し、専門家やボランティアを派遣している。青年海外協力隊もJICAの事業の一つである。私たちは支援と聞くと「物資の提供だけではない」という。JICAは、ODAなどを通じて、開発途上国における社会・経済の開発を支援し、専門家やボランティアを派遣している。青年海外協力隊もJICAの事業の一つである。私たちは支援と聞くと「物資の提供だけではない」という。

自分「何とかしたい」気持ち 現地では「有難迷惑」にも

実際に支援を行う際に大切なことについて「相手のことを尊重し、目線を合わせる事が大切」と手崎さんが答えてくれた。手崎さんは青年海外協力隊の参加経験をお持ちで「相手の気持ちを尊重しなければならぬ」ということに手崎さんは気づかされた。現場を、実際に現地に、現地の人とコミュニケーションをとったり、自分の気持ちだけではなく相手の気持ちを考えることも大切だ。

高校生 知らない人でも身近な存在 ツイッターで協力者 3千500人 募金額 約136万円を達成

「ゆしぼんさんは「みく」として2人で「高校生募金プロジェクト」を立ち上げ、ツイッターで募金協力を呼びかけた。協力者は3500人以上、募金総額は約136万円に上った。高校生の活動としては募金額が大きく、本校で実施した募金活動の約20倍である。成功の秘訣は、2人のネットの使い方にあった。

ネットにあった「たくさんさんの気持ち」 ソーシャルメディアで1つに

「ゆしぼんさんは「みく」として2人で「高校生募金プロジェクト」を立ち上げ、ツイッターで募金協力を呼びかけた。協力者は3500人以上、募金総額は約136万円に上った。高校生の活動としては募金額が大きく、本校で実施した募金活動の約20倍である。成功の秘訣は、2人のネットの使い方にあった。

予想以上の協力の「拡散」 「ツイッター効果」を実感

2人の呼びかけに「震災の翌日には協力者が90人を超え、今では800人もの方がプロジェクトのアカウントをフォローして下さった」という。これだけの人が賛同してくれただけで「予想以上の反響」だったというが、同時に「ツイッター効果」も実感したと話す。「公式ツイッターに「ゆしぼん」さんも同様にボランティアの難しさに直面していたのだ。そこで、ツイッターに「募金活動を始めよう」と呼びかけた。真っ先に声をかけてくれたのが京都府在住の高校生「みく」さんだった。

「ゆしぼんさんは「みく」として2人で「高校生募金プロジェクト」を立ち上げ、ツイッターで募金協力を呼びかけた。協力者は3500人以上、募金総額は約136万円に上った。高校生の活動としては募金額が大きく、本校で実施した募金活動の約20倍である。成功の秘訣は、2人のネットの使い方にあった。

「ゆしぼんさんは「みく」として2人で「高校生募金プロジェクト」を立ち上げ、ツイッターで募金協力を呼びかけた。協力者は3500人以上、募金総額は約136万円に上った。高校生の活動としては募金額が大きく、本校で実施した募金活動の約20倍である。成功の秘訣は、2人のネットの使い方にあった。

たけど、選手にもらった元氣を発揮していきたい」

娘の奈美帆さん(7)と楽天のユニホーム姿で来た津田裕子さん(35)は「余震、余震で心が折れそうになったけど、選手が来てくれて希望の光が見えたように感じた。一步一步進んでいきたい」と話した。

(篠健一郎、渡辺崇)

『東北学院メッセンジャー』

～活動内容～

私たちは、各避難所の必要物資のニーズ(今必要なもの)を取材し、『必要物資・支援要求マップ』というサイトに書き込み、被災地に必要な物資が届くように、被災地の声を多くの方に伝える活動をしています。

～『必要物資・支援要求マップ』(<http://311help.com/>)について～
このサイトの地図上に書き込むと、行政、NPO 団体や多くの方々がこのサイトを通して、貴方のきめ細やかな情報を得る事が出来ます。3月22日(火)付の河北新報で紹介されました。

※私たちにできることは、ざっと見たとき見逃されてしまうようなきめ細やかな情報を多くの方に知ってもらふことであり、必ずしも物資が届くことを保障してはおりません。しかし、この情報は必ず多くの方の目に留まるものなので、是非、あなたの必要なものをお聞かせください。

代表者：東北学院高校 3 年 末永 伸太郎

東北学院メッセンジャーホームページ → <http://tg-messenger.on.coocan.jp/>

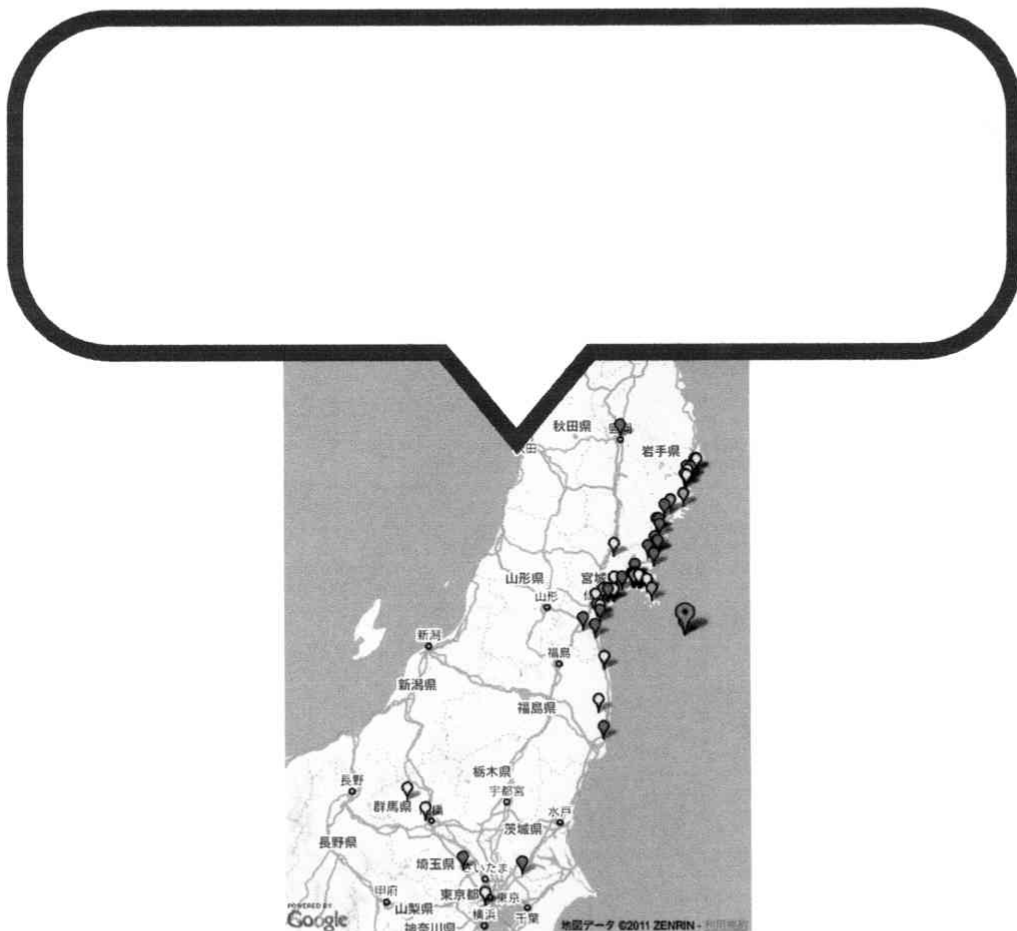


311 HELP.com



必要物資・支援要求 マップ

**遠慮しないで
必要なもの、書き込んで下さい!**



こんにちは。311help.comです。

このサイトは、地図上に皆さんが、必要としているものを書き込み、それを見た誰かが支援するサイトです。

足りないもの、いっぱいあると思います。みんな、皆さんの事が心配なんです。だから、声を上げてみてください。

このサイトを使ってください。隣の方にも教えてあげてください。おじいちゃんの代わりに書き込んであげてください。

私たちは皆さんの声を精一杯大きくします。遠慮しないでください。日本中、あなたの力になりたいと思っています。

皆さんが一日も早く、日常を取り戻せますように。そして一日も早く、笑顔を取り戻せますように。

運営 311help.com 株式会社 42 Powered by Google 地図データ ©2011 ZENRIN



<http://311help.com>



<http://311help.com/m>

みんなの（こころ）も
どきどきも!!

電気

4県22万戸 停電続く

東北電力によると21日午後8時現在、青森、岩手、宮城、福島の4県で計22万1571戸が停電している。前日午後8時の時点に比べ2万2382戸減少した。

県別では最多の宮城が14万3267戸で、前日比2万1271戸の減少。津波

被害が大きかった南三陸町の一部で復旧が始まったものの、女川町では復旧のめどが立っていない。他の市町村は全戸か一部が復旧している。岩手の停電は3万9682戸で、福島3万8092戸、青森530戸。

水道

白石・蔵王 復旧進む

仙台市水道局によると、宮城県七ヶ宿町の七ヶ宿ダムを水源とする広域水道水系は20日現在、白石市内の本管の点検、改修を終え、蔵王町内の復旧作業が進んでいる。仙台市の配水所への供給は予定通り24日ごろとなり、31日にも各戸に給水できる見通し。また、泉区北部と青葉区中山西部で比較的大規模な漏水がある

ことが分かり、通水に向けて作業を急いでいる。

ガス

(1面に詳細記事)

支援

●ハローワーク仙台(仙台市宮城野区榴岡4の2の3)と仙台新卒応援ハローワーク(仙台市青葉区中央1の2の3)は22日から業務を再開する。失業給付関連では、失業認定に必要な求職活動の要件を緩和して対応するほか、管轄外の市町の住民も受け付ける。職業相談・紹介も一部可能。連絡先はハローワーク仙台022(299)8811。

●カツオー本釣りの船団が気仙沼港に入港するなど気仙沼市と縁が深い高知県黒潮町の大西勝也町長が20日、同市を訪れ、トラックに積んできたプレハブ倉庫1基を贈った。大西町長は18日に高知を出発。毛布や食料などの物資とともに約13平方メートルのプレハブ倉庫を運んできた。寄贈を受けた気仙沼市の加藤慶太副市長は「温かい気持ちに感謝します」とビッグな支援物資に感激していた。市内の中学校の共同調理場に設置し、炊き出し用のコメの保管所に使用する。

●母乳育児相談室「まんまはうす」は22日から、助産師による赤ちゃんの湯あみ、体重測定、育児相談を行う。料金は1000円。困っている人は相談に応じる。電話予約制。日曜日は休み。所在地は仙台市太白区長町5の5の36、レスポール長町101号室。ホームページ(<http://www.geocities.jp/mamma>、

house/index.htm)に地図を掲載。連絡先は090(4552)1179。留守番電話の時は折り返し連絡する。

●かくたこども・アレルギークリニック(多賀城市中央1の16の8)は22日午前9時～午後5時、アレルギー対応食品を無料配布する。食物アレルギーのある人なら誰でも受け取れるが、クリニックまで取りに行くことが条件。なくなり次第終了。配布する品目はホームページ「アレルギーっ子の生活」(<http://home.page2.nifty.com/smarrk/>)に掲載。連絡先は022(368)7717。

●NPO法人アイサポート仙台は、被災した視覚障害者の日常生活の困りごと、生活情報などの相談に応じる。平日の午前9時～午後6時。連絡先は022(212)1131。

●ホームページ(H.P.)制作会社ココム(仙台市青葉区)は、震災情報を発信するH.P.の無料更新サービスを開始する。東北地方の企業や公的機関が対象。基本的に週1回のペースで文章や写真、図表の追加、修正などを行う。4月末までサービスを継続し、その後は復興状況など見て判断する。連絡先は022(711)4587。

●イズミハウジングは22日正午から、仙台市若林区大和町2の1の2の同社前で炊き出しを行う。カレーライス約200食を無料提供する。食器やスプーンを持参。連絡先は022(782)4888。

●NPO法人シャロームの会は22日午前8時半～9時半、仙台市若林区新寺2の3の1のカフェギャラリ

道路

宮城93カ所で通行止め

宮城県によると、21日午後5時半現在、県が管理する国道、県道は93カ所で全面通行止めとなっている。

片側交互通行は71カ所。詳細は県のホームページで閲覧できる。

バス

5路線の運行再開 仙台

仙台市交通局は22日、南、東、西方面で計5路線のバスの運行を再開する。これまで走らせてきた特別路線3線も同日、通常路線に戻す。運行路線数は計30。時間は午前6時半～午後8時半で、30分～1時間間隔。運行再開路線は次の通り。

長町営業所→長町駅経由南仙台駅東口→四郎丸、岩切駅→利府街道→東仙台営業所→原町経由仙台駅→交通局大学病院前、東高校入口→若林経由仙台駅→交通局大学病院前、

青葉台一宮教大・工学部→青葉通経由仙台駅、作並温泉→白沢車庫→国道48号・八幡町経由仙台駅→十和田観光電鉄(十和田市)などは22日、仙台→青森間の高速バスの運行を再開する。1日3往復で予約制。運賃は中学生以上片道5700円で、小学生以下は半額。連絡先は同社青森営業所高速バス予約センター017(787)1558(午前9時～午後6時)。

宮城交通は22日、仙台→弘前間の高速バスの運行を再開する。1日1

「太陽とオリブ」で炊き出しを行う。おにぎりともみじ約60を無料提供する。衣類などの無料配布もする。連絡先は022(293)4345。

●NPO法人仙台夜更わりグループは22日午前11時～午後1時、仙台市若林区文化町17の25の事務所前で、缶詰など100個を無料配布する。なくなり次第終了。連絡先は090(9423)5697。

●栗原おんがえし隊は22、23の両日午前10時～午後5時、栗原市築館伊豆1の7の26、旧万商店の空き店舗で支援物資を受け付ける。精米した白米、梅干し、カップ麺、缶詰、ハム類、未使用のみそ・しょうゆ、割り箸、ラップなどの提供を呼び掛けている。早ければ24日に南三陸町方面に届ける。連絡先は0228(22)1905。

●生活困窮者支援施設・行持院(宮城県亶理町逢隈小山与平谷地61)は、一般の給水・入浴と、ろうあ者20人・手話通訳者5人に限定した宿泊・食事提供をしている。いずれも無料。井戸水のため飲料の場合は煮沸が必要。入浴はタオルなど持参。洗濯機1台があり洗剤持参で少量なら洗濯も可能。連絡先は0224(56)1826、090(2796)9440、080(1847)3593。

●山口県萩市は、緊急避難を希望する被災者の家族や児童生徒を受け入れる。家族向けに公営住宅20戸、子どもだけでも滞在可能な青少年宿泊施設(50人程度)を2カ月ほど無償提供。状況で延長にも応じる。通学、通園を含め学習などにも配慮する。当分の間、休日・夜間も相談を受け付ける。萩市企画課080(1913)0719。

物資運搬 効率的に ネット会社 マップ作成

東京のインターネット関連会社が、避難所に物資を効率的に配分するためのサイトを作成した。

開発したのは「必要物資・支援要求マップ」。米インターネット検索大手グーグルによる地図サービスベースにしており、17日から運用している。

使用法は被災者が地図上に示されるポイントに被災者が必要な物資を書き込む一方、自治体など物資の送り手側は書き込みを閲覧しておおよその需要量を把握。必

要な場所に必要物資を送り届けようという試みだ。

被災者の多くは現在、インターネットを使える環境にないが、物資を運搬するドライバーなどの書き込みも想定している。今後、携帯電話用サイトも作成する。

開発した「42(フォーティーツー)」の田原大生社長は「物資の効率的配分に役立てることができればうれしい」と話している。サイトのアドレスは<http://31help.com>

往復で予約制。運賃は中学生以上片道5090円で、小学生以下は半額。同路線は既に運行を再開している弘南バスと合わせて1日2往復となる。連絡先は弘南バス予約センター0172(37)0022(午前9時～午後6時半)。岩手県交通は22日、仙台→江刺間、

盛岡→水沢・千厩間の急行バスの運行をそれぞれ2往復で再開する。

JRバス東北は22日、盛岡→久慈間を3往復で全線運行する。これまで盛岡→葛巻の部分運行だった。

東北バスは22日、盛岡→軽米・大野間を1往復で運行再開する。

安否

宮城県が避難者情報電話

●宮城県は、22日午後4時、避難者情報ダイヤル022(211)3430を開通する。各市町村が避難所ごとにまとめた避難者リストに基づき、電話で氏名、住所などの照会に応じる。提供できる地域は21日現在、石巻、気仙沼、白石、角田、多賀城、岩沼、登米の各市と、七ヶ宿、柴田、松島、利府、大郷、加美、女川、南三陸の各市。ほかの市町については情報提供を受け次第、対応する。開設時間は午前9時～午後9時。県のホームページにも掲載する。

●宮城県警は、行方不明者相談ダイヤル022(221)2000に寄せられた連絡がつかない人々の名前一覧をホームページ(H.P.)に掲載。H.P.を

見て生存を県警に連絡すれば、掲載された名前を削除していく。

●宮城県警は、死者の中で、身元の推定できる人の名前と、遺体の収容場所を公表。H.P.で閲覧できる。連絡先は行方不明者相談ダイヤル022(221)2000。

●岩手県警は、地震に伴う行方不明者に関する相談に応じる行方不明者相談ダイヤル(0120)801471を設置。

●福島県警は、地震の行方不明者に関する相談を「行方不明者・警察安全相談コーナー」で応じている。(0120)510186、090(8424)4207、090(8424)4208

集委員会)①ゆうちょ銀行00100-2-552②岩手銀行県庁支店(普)2016634③北日本銀行本店営業部(普)7028484④東北銀行本店営業部(普)3237413。連絡先は保健福祉企画室019(629)5408。

●青森県「青森県災害対策本部」①青森銀行県庁支店(普)3008317②みちのく銀行青森支店(普)2799091。連絡先は健康福祉政策課017(734)9276。

●名取市 七十七銀行増田支店(普)5566398「名取市災害対策本部災害対策部長佐々木一十郎」、現金書留は〒981-1292、名取市増田柳田80、市災害対策本部災害対策部長佐々木一十郎。市会計課で現金も受け取る。

●岩沼市 七十七銀行岩沼支店(普)5671434「岩沼市災害対策本部災害対策部長井口経明(つねあき)」。

●宮城県大和町 七十七銀行吉岡支店(普)5473306「大和町災害対策本部」。

●仙台市 七十七銀行仙台市役所支店(普)5334233「仙台市災害対策本部」。

●宮城県七ヶ浜町 七十七銀行七ヶ浜支店(普)9000887「七ヶ浜町会計管理者阿部真也」。

●黒石市 姉妹都市の宮古市への義援金を4月28日まで受け付け。青森銀行(普)3017743「宮古市救済金黒石会計管理者」。

●全国信用金庫協会 全国の信用金庫本店(約7600店)で受け付け。9月30日まで。

●宮城県共同募金会 七十七銀行

ズ、赤ちゃん本舗、デニーズほか全国の1万4251店舗に、31日まで募金箱を設置。

●カインズ カインズホーム喜多方店をはじめ17都道府県の125店舗に、募金箱を設置。

●楽天 楽天銀行に口座のある人はホームページで、それ以外の人には、楽天銀行本店(普)9000180、楽天銀行株式会社 東北地方太平洋沖地震義援金。ビットワレットはホームページで、1～5万円まで受け付け。5月31日まで。

●シダックス 被災地以外のカラオケ店、レストランの全店と、病院内レストラン、売店などの一部に設置した「マザー・フード基金」募金箱で受け付け。

●エポック・ジャパン 神奈川、千葉、宮崎、熊本各県にある28のファミリーホールで受け付ける。

●日本スポーツ振興センター ホームページから「Club toto」ポイントで募金できる。5月31日まで。

●オズビジョン インターネットサイト「ドル箱」でポイント募金を集めている。31日まで。

遺体安置所

●宮城県警の遺体安置場所は次の通り。(21日午後5時現在)【気仙沼市】本吉響高、新城小、白山小、踏下小、面瀬小【石巻市】市総合体

●4月に宮城県内各地で開催予定

●仙台市太白区・女性(74) 夫が

●栗原市・男性 沿岸に比べて被

地域活性化は「地産地消」から 「地場もん屋」総本店

新聞部は6月4日、「地産地消」推進による富山市の地域活性化について話を聞くため、富山市総田輪にある「地場もん屋」総本店を訪ねた。取材に応じてくださったのは、運営している株式会社まちづくりとやま第2事業部長・小田原健一さん、地場もん屋施設長・森田清さん。それに事業を推進する富山市農林水産部農政企画課主幹・本林成元さん、同主任・高田英治さん。

中心市街地から地産地消

地場もの屋、惣本店は富
地場もある。レトロな感じ
地場も、という看板
の大きな幟が目につく。
に入ると、所収目とい
う野菜や果物、切花、特
品が並べられていた
が、商売に人気なようで、取
材を行った夕方5時前後には、
生鮮食品配出中心にはほとんど
切れが絶えず出てくる。
開店初は午後7時からで、最
時が最も多量に運送する時間帯だ
だが、現在は午前10時から
午後6時まで。鮮度が

い野菜を早く手に入れるため、客が午前中に集中するようになった。推測されるまた、取材時にも「ピーター」と思われる客が店員と親しげに会話するような場面も見られ、和やかな雰囲気のお店だった。直売コーナーの他に地産地消交流学習エリアがあり、市民に「地産地消」についての情報発信している。

る。消費者にとっては、地場も
屋の幟が目印となり、地



新鮮な野菜が並び総本店の店内

新鮮な野菜が並ぶ総本店の店内



まず、富山市の「地場ちゃん屋」事業について、高田さんにお話をうかがった。この事業は、富山県の農産物が水圏に特化し、野菜出荷量が全国最下位という現状を背景に、市内の農業活性化や各地域で行われている「地産地消」を一体化して推進するため平成6年度に市町村合併後、単立されたネットワーク「市産」の二環として始まった。富山市中心部の総出陣通りにある総本店を中心に、現在約40カ所ある加盟店で、市内の農家が採れた農作物や加工品を委託販売している。中心市街地にある直売場、および総本店は「フテナシヨンの役割」を果たし、情報発信にしている。

なるなどの販売場もある。この「地場もん屋」は好評で、今年の5月旬刊には来客者数が10万人に達し、売り上げも当初の予定を大きく上回っているという。しかし「地場もん屋」の顧客年齢は50代から60代が約60%を占め、高校生など10代はわずか1%に留まっているのが現状だそう。

高田さんに「地場もん屋」事業にかけの想を聞くと、地元の人においしい地場物を食べてもらいたい。地場物が中心となっていく地産地消を進め、富市町の農業活性化を図っていくつもりで、「と」を力強く語った。

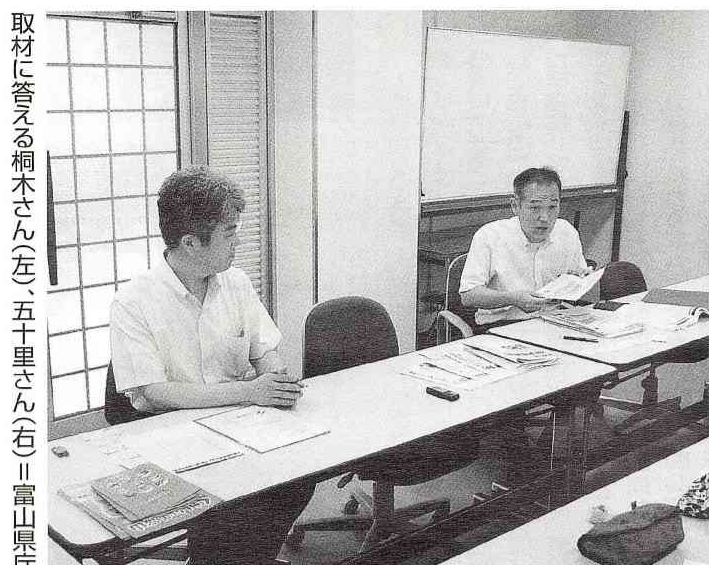
自分の町・富山をもっと知って

新聞部は6月24日、富山県の地域振興や県外向けのPRなどについて行政側から話を聞くため、富山県庁を訪れた。取材に応じてくださったのは観光・地域振興局地域振興課主幹の五十里栄さん、桐木均さん。

県外に富山ファンを増やせ！

はじめにお二人に、他県のはじめにお二人に、他県の人から見た富山県印象についてどう思うかと聞いてみる

と「富山県には魅力ある観光地や優れた特産品がたくさんあるが、全国的にはあまり知らないから、県外の人に富山県ファンになってほしいという思いから、東京の有楽町に富



山梨のアニマルショップを
オープン、富山の川幸や海
幸など、約800品目を展
示販売し、試食や調理を通じ
て旬の富山、をPRしてい
る。また、富山を応援する農外
の会組織「とやまファン倶
楽部」事業を若井、滑川市
出身の女優・井沢えりらも
入会して富山の魅力を広め
てもらっている。さらに富県
のPR誌とやまひまも県
外向けに3、9号発行。五十
市などは、この年を通して、富
山を知らなかった人も、こ
ういふところがあったんや、
と気がついてもらえればうれ
しいですね」と話していた。

富山県人も再発見したい郷土の魅力

地域振興課では、県内向けPRも忘れていない。地元の人たちに身近な「地域の宝物であり次代に受け継ぎたいもの」を見つめ、保存・活用したいという目的をもち、地域の宝として認定している。この「よまみ未来遺産」にはなみの散居村やいちごの産地である大田原町など、さまざまな品目があり、また、よまみの昆布料理や「よまみ茶」などの加工品も認定されている。

「よまみ」から「よまみ」まで、富山県産品のほとんどは、富山の誇りを持って薦められるべきものである。

シロエビやホタルイカ、チリッパなどを「富山県推奨品」として認定し、商品の認知度を上げる試みも行っている。今年の1月～2月に日品目を認定し、パンフレットを作成したり、「サファティ」といふ全南誌で、『1個人』といふ全南誌で、『PRしたなりた。五千里さん』と題して「よまみ」について取り上げられた。

また、若い世代向けのPRはうかがう尋ねると、郷土館山について知っているものが多い。山について知っているものが多い。山について知っているものが多い。

特集1

富山の魅

私たちが生まれ育ったふるさと、富山。豊かな自然、きれいのあたかさ……。しかし、私たちはそんな環境が当たり前すかないか？ それらを次世代にも守り伝えていくために、私たち今回、新聞部は「富山の魅力 新発見」というテーマで特に尽力している様々な企業などにスポットを当てて徹底取材

【担当】梶川芽生 金井彩夏

県内外で評価される県産食品

次に「地場もん屋」総本店にお話をうかがった。

「地場もん屋」に生産物を提供しているのは「富山、これとネットワー」に加盟している農家だ。生産者自身が商品の価格を決定して「地場もん屋」が委託販売し、収益の一部が手数料として「地場もん屋」に入るシステムになっている。加工品では富山市や多地区のリンゴジャムや旧田村の柗子、生鮮食品はキャベツ、ニンジンなどは、中には黒キャベツ、ブロッコリーなどの変わった種類もある。

「地場もん屋」の商品の価格は、購入後に消費費であるが、落着いた。自分の思ったような味ではなかった。たのクレームが出ることもあるという。「地場もん屋」では、こうした野菜も鮮に、かつ安全に食べてもらえるように心がけている。荷した野菜は翌の日のうち必ず売切をうようにしているが、その人気が売れ残ることはほとんどないようだ。

「地場もん屋」の商品の価格は、購入後に消費費であるが、落着いた。自分の思ったような味ではなかった。たのクレームが出ることもあるという。「地場もん屋」では、こうした野菜も鮮に、かつ安全に食べてもらえるように心がけている。荷した野菜は翌の日のうち必ず売切をうようにしているが、その人気が売れ残ることはほとんどないようだ。

「地場もん屋」の商品の価格は、購入後に消費費であるが、落着いた。自分の思ったような味ではなかった。たのクレームが出ることもあるという。「地場もん屋」では、こうした野菜も鮮に、かつ安全に食べてもらえるように心がけている。荷した野菜は翌の日のうち必ず売切をうようにしているが、その人気が売れ残ることはほとんどないようだ。

ふんわりと雲は「かけがえないもの」

【新聞部】柴田さんは、いろいろな面、富山をPRされているとお聞きしていますが、どのような思いでされているのですか？

「柴田さん」

富山のさまじく、まな魅力をもっと全国に知ってもらいたい、

山を
迷いで！

素晴らしい富山を
君達が受け継いで！



柴田理恵さん独占インタビュー

富山県富山市(旧・八尾町)出身の女優・タレント、柴田理恵さん(WAHAHA本舗所属)から、新聞部に直接メッセージを寄せていただいた。柴田さんはいま、舞台、テレビ、映画に引っぱり出される毎日。一方で、平成17年に富山県から「さまわい大場」に委嘱され、さまざまな場面で故郷富山をPRされている。今年の春には、富山県氷見市を舞台にした映画演劇「ほしのふるまち」も公開された。

新聞部では、ふるさとを愛してやまない柴田さんに、富山の魅力などについてお聞きした。

柴田理恵さん独占インタビュー

われぬ「富山のよき」とはどんなことでござんすか。

「**葉田さん**」富山の素晴らしいところはなんでもあります。魚・米・水、山の物は海の物も全部おいし。立山連

何ができるのかを考えるのも、大切なことだと思ひます。

皆なかの中かう、この素晴らしい富山をばなれてくれる人が大勢出てくれることを心から願っています。

アニメーションで富山をPR



ちから家族に伝わることを
よりたくさんさんの意識
えることができる」と力説
話す。

そして高岡銅器について
「私は『高岡銅器』とい
び方はあまり好きじゃな
いです。『銅器』と聞くと、特
物というイメージを持ち

富山発のアニメ制作

株式会社 ビー・エフ・ワークスは、富山県南砺市城端にあるアニメーションの企画制作会社。アニメーションにはその名が入れられた全国的に有名な会社で、これまでに「ドラゴンボール」や「ピュートン」教授、「鋼の錬金術師」などの作品制作に携わっている。地方に本社地を置きながら、アニメーションの元請け制作を手がける能力を持っている数少ない企業として知られている。

そこで新聞部では、アニメーション制作に県内外へのPRなどについて堀川司社長、菊池重広専務にお答えいただいた。

マイの魔法と家庭の日



①ピーエーワークスの社屋
②『マイの魔法と家庭の日』

本当の魅力は「富山人の心」

<p>「文化部のインターハイ」 呼ばれる全国高校総会文化祭が、来年は富山県で開催される。全国から約2万の高生が富山を訪れるが、その時に私は彼らに富山のことをしっかりと話せるのだろうかというのがこの特集の Ausgangspunkt だった。</p>	<p>しかし国際生アケートの視察を促して、富山に生まれ育った私たちが地元のことを知らないという現状がある。富山についてもっと知る必要がある。富山について必知となるからスタートする必要がある。</p>	<p>そこで私たちは、様々な手帳や富山のことやササシ、豊かな自然に抱かぬ観光客、歴史と伝統を誇る特産品、名物の数々。統計調査、教育熱心な県民、雪や氷、教育熱心な県民、雪や氷の「アピールポイント」の次々に出てきたが、果にこれだけか。本の富山をのびのびと読むのだろうか。富山の本来の姿をのびのびと読むのだろうか。</p>
<p>当の魅力」とは何なのか、次世代に何を伝えたいべきなのか。悩んだ末、私たちが辿り着いた1の手法は、当たり前過ぎて気付きにくい「私たちが過ごしている日常の富山」を掘り起こす、ということだった。</p>	<p>富山の「隠れた魅力」を探るため、私たちは様々な場所から取材を行ったが、どの取材先でもとても素晴らしいお話を聞くことができた。職人さんやのチャレ精神、地域への振興や活性化にやる熱意、おいしい富山の味に地域に居る工夫など、いずれの取材でも富山を愛してやまない「人々の姿」が生き生きと浮き彫りになってきたのだ。</p>	<p>この富山には財産と呼べる「もの」がたぎっている。しかし「人」もまた、財産と言えるだろう。新聞社「メッセージ」を寄せてくれた柴田理恵さんは「先輩たちの言葉を学</p>

富山固有の素晴らしさを伝えたい

すいねミシングにした方がいいのではないだろうか。それは、まだではない。かね。能作社長は、新しい箇のスタイルを築くことを描いているようだ。

時代とともに変わってきける商品も流通スタイル時代ととも変わってき

案は毎年の真内の小中学生を対象とした「家庭の日作文コンクール」の入賞作品から採られた。菊池専務は「その工す」と話していた。

ピノードをもとにしたからでなく、お説教臭くない？ ストリーができたのだと思います」と話していた。

能作社長は力強く言い切った。いつまでも昔からの伝統を守るだけでは、伝統継承の先は見えて来ない。守るだけでなく、現代のニーズにも合わせて新たなを作りだしていくことが大切だ。【家城綾乃

「『富山人の心』」
 さて、フアンメシヨン制
 を通して富山知識度を下
 ることができたか、と聞い
 てみる。フアンメシヨン制
 作・直接の知名度アップに
 するとは思いませんが、作品契
 機として知ってもらえ、あるい
 は興味を持ってもらえれば上
 げになることが出来ると思
 います」と語っています。
 最後に菊池専務は「生まれ
 故郷であるということ以外
 に、仕事や生活を送る場所も
 『ふるさと』になれます。」
 私にとってのふるさは何なのか、その問いは私には答えられな
 い。一方であり大切な存在です」と語ってくれた【堀川芽生】
 。。。。。。
 びくこの矢、自分なに何かに
 できるのかを考えると、素晴ら
 しい富山を受け継いでいるこ
 もらいたいに語っている。
 私たちが追い求めてきた「富
 山の本当の魅力」。それは何
 世代にもわたって、人から人
 へふさふさの自國の財産を受
 け継いでいる「富山人の心」
 なではないだろうか。
 私たち高校生にできること
 と。それは、かけがえないとい
 うものは異なるだろう。古い
 からものをするだけでなく新
 く、新たな財産を作り出して
 く必要もある。でも、私た
 ちが富山を愛し、誇り高き
 「富山人の心」を持てば、例
 え他県の人から「富山」と言
 ったあかたかな「富山」と言
 われなくとも、われらが富
 山はここにも負けないふるさ
 となる。

【堀川芽生】

国際高新校舎「東館」 第2期工事が着工



新・音楽室も完成へ

1331号(3月号)で詳しくお伝えしたとおり、国際高新校舎の建設第1期工事(5階建て部分)は今年2月に無事完了し、旧校舎も完全に解体されて、私たち国際生はいまピカピカの学舎で勉強している。

正門をくぐるのと分かるが、5階建て校舎の東側で、第2期工事がこの4月から始まっている。新しく建てられるのは鉄筋コンクリート造り3階建ての「東館」(※新聞部命名)来年1月上旬の完成を目指しているこの第2期工事を追った。【新聞部新校舎取材

別教室がメイの東隣にあり、西面2階、南北は隣建てで同じ27・8坪で、延べ面積は約170平方メートル。これは現校舎と同様に、南北にコッタ（窓）とドアを併用し、東西面はタイル貼りのデザインになる。東側に屋外階段が設置され、アルミバルコニーが覆われる。東面の南半分は南ガラスになる予定。

車庫 内部のレイアウトは109号（昨年1月号）

で初公開したが、その後、一部設計変更がなされた。それに伴い、来年度から現校舎のレイアウトも大きく変わる。

まず、1階開閉式を定めていた被服実習室は、第1情報室に、図のように情報室設備と可動開閉式の

新「意室」に変更

予定通り

新聞部では、第1

を備えた
となった。

進んで
(株)竹

期工事に一丁

「中工務店にきく」

「位置や本数を細かく点検する仕事をしている。建物の耐震構造に関わるだけに、ミスをなすといけない」

「最」

西館 4F

西館 3F

西館 2F

西館 1F

気に入りで、趣味の自転車に乗って利賀や八尾などいろいろな所へ探検しにいったそうだ。それぞれにても楽しい思い出がたくさんあるという。新聞部がインタビューした7月8日

国際高中で、特に印象に残っている思い出は昨年の体育大会と文化祭だそう。

津波のような大きな災害を
身近に経験したことがなか

「国陽高校はとても良い学校。熱心で、困った時に助けてくれる先生達がたくさんいる。残りの高校生活、勉強や友達と過ごす時間を大切にして、挑戦する心構えを持ち、3年間を最高に過ごしたい。」

経営情報、福祉、食物栄養学科、それに専攻科食

な仕事に就ききたという。将昇に向けての準備の必要が強調された。将昇に向けての準備の必要が強調された。将昇に向けての準備の必要が強調された。

重要なポイントはいかに具体的に生徒を聞かせるか

校舎屋上から見た工事現場(7月8日撮影)